

千葉大学における喫煙状況と喫煙対策の効果について

千葉大学 総合安全衛生管理機構 新保 泉・ 中田 暁・ 長尾 啓一

[目的]

本学では2年前より喫煙対策指針の策定、分煙環境の整備と受動喫煙防止の強化、建物内完全禁煙の学長通知などを通じて、全学的に喫煙対策に取り組んできた。

今回は職員・学生の喫煙状況を把握するとともに、職員の喫煙状況について経時的に調査し、喫煙対策の効果につき評価することを目的とした。

[対象および方法]

1. 2005.10月、本学の職員でEメールアドレスを有する者2150名に対してメールによる匿名回答喫煙調査を実施した。これにより484名から回答を得たのでその結果を分析した。調査内容は、喫煙対策に対する認知度、改善度に関する印象、喫煙の有無など9項目であった。

2. 2004年度と2006年度に定期健康診断を受検した職員、それぞれ2181名、2585名のうち、喫煙の有無につき回答を得られた2099名、2460名を対象とし、喫煙率を事業所ごと（3つのキャンパスと附属病院）に比較検討した。

3. 2005年度に定期健康診断を受検した学生で喫煙の有無につき、回答が得られた10302名を対象とし、男女別、学部別、入学年度別に喫煙率の比較検討を行った。

[結果・考察]

1. 職員に対する喫煙対策指針、学長通知の認知度はそれぞれ60.3%、66.7%であった。また、この調査での喫煙率は18.2%であった。喫煙者は非喫煙者に比して、喫煙対策に対する関心が高い傾向があった。非喫煙者は喫煙者に比して、喫煙対策による改善がみられないと考えている傾向があり、喫煙者・非喫煙者間で意識

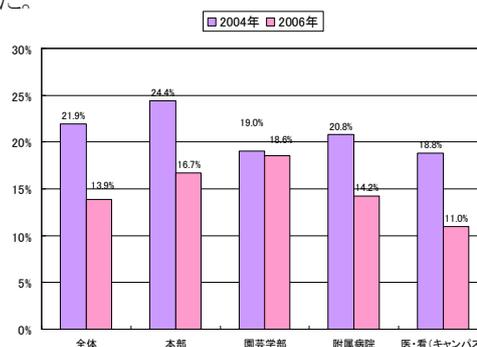
の違いが認められた。

2. 職員の喫煙率は2004年度21.9%、2006年度13.9%と著明に減少していた。また、4つの事業所のいずれにおいても著明な喫煙率の低下を認めた。特に医・看キャンパスでは7.8%、本部キャンパスでは7.7%と大幅な改善を認めた。(図)

3. 学生の喫煙率は8.9%であった(男性13.6%、女性2.9%)。学部別喫煙率では工学部(12.8%)、園芸学部(10.4%)の喫煙率が高く、薬学部、医学部、看護学部など、健康に関わる学部の喫煙率はいずれも低く、それぞれ3.1%、3.8%、4.1%であった。学部生の入学年度別喫煙率は在学1年目は2.8%であるが、5年目では21.3%と在学年数が増えるほど増加する傾向があった。(6年目は9.9%と低下している。5、6年目は医学部生が主であるが、5年目の喫煙率が高いのは留年生の喫煙率が高い可能性も考えられた。)

[結論]

全学的な喫煙対策により2004年からの2年間で著明な喫煙率の低下を認め、対策が効果的であることが明らかになった。今後は今回明らかになった喫煙状況を踏まえ、最終的な目標である敷地内禁煙に向けて、禁煙支援を含むさらなる取り組みが必要であると思われる。



職員の事業所別喫煙率の変化